

「マクロ経済学Ⅰ」試験問題

2013年7月19日（金） 9:30～10:30 施行 担当者名：蓮見 亮

問題用紙は1枚紙表裏（問4まで）、解答用紙は別紙

持ち込み不可、電子機器の使用不可

問1. 以下の文章を読んで、に入る適切な語句を次の枠線の内の語句から選んで記入しなさい。なお、複数回用いる語句、一回も用いない語句も含まれている。

右方	流動性	流動性選好理論	実質変数
短期	スタグフレーション	失業者	貨幣供給量
流通速度	左方	計算単位	国民貯蓄
長期的	名目変数	交換手段	自然産出量
貨幣数量説	期待物価	貨幣需要量	貨幣の中立性命題
物価水準の下落	総需要曲線	右上がり	物価水準
公開市場操作	垂直	不換紙幣	生産性
期待	構造的失業	貨幣供給量	中央銀行
貨幣供給量	物的資本	短期的	右下がり
労働力	硬直賃金理論	利子率	物価水準の上昇
総供給曲線	政府支出の削減や増税	長期	技術知識
部門間シフト	政府支出の増加や減税	古典派の二分法	商品貨幣
利子率効果	摩擦的失業	総需要・総供給モデル	

- 世界の国々の生活水準の格差は、（ア）のの違いに起因する。
- 生産性は、（イ）、労働者一人当たりの（ウ）、人的資本、天然資源により決定される。長期的な成長率を高めたければ、そのいずれかを改善する政策を採ればよい。
- 国民経済計算では、純輸出ゼロならば投資と（エ）は等しくなる。
- 15歳以上人口は必ず就業者、（オ）、非労働力のいずれかに分類される。就業者と（カ）を合わせて（キ）という。
- （ク）の存在により一定数の（ケ）は避けられないが、制度的な歪みがあると労働市場での恒常的な労働の余剰にあたる（コ）が生じる場合がある。
- 貨幣とは、（サ）、（シ）、価値貯蔵手段の3つの機能を有する資産をいう。
- 貨幣は、最も（ス）の高い価値貯蔵手段である。
- 貨幣には、本源的価値をもつ（セ）と、本源的価値をもたない（ソ）の2種

類あるが、現在の先進国経済のほとんどは、を用いている。

- 中央銀行は、によってを調整し、を目標値に誘導する。
- によると金融政策はとのどちらでも表現できる。
- によると、貨幣のが一定で、GDPが貨幣量と無関係ならば、貨幣の価値はに反比例する。
- とは、すべての経済変数を2つのグループ（名目変数と実質変数）に分けるべきとする考え方をいう。
- によると、貨幣供給の変化はには影響するが、には影響を与えない。
- 古典派の二分法と貨幣の中立性を仮定に基づく古典派理論は、ではなくの世界を描写している。には実質変数と名目変数は相互に影響しあう関係にある。
- 短期の経済変動は、により描写できる。このモデルでは、横軸に産出量、縦軸に物価水準をとると、総需要曲線は、長期の総供給曲線は、短期の総供給曲線はである。
- 総需要曲線がであることは、により説明できる。
- 長期の総供給曲線がなのは、自然産出量が労働、、天然資源、などの物価以外の要因から決定されるためである。
- 短期の総供給曲線がであることは、が人々のする水準から乖離すると、供給量がから乖離するためであり、、硬直価格理論などから説明できる。
- 政府は、によりを右方シフトさせることができる。
- は、金融緩和によりを右方シフトさせることができる。
- 総需要曲線の望ましくない左方シフトに対して、政策立案者がなんら対策を講じなくとも、の下落が実際の物価下落に追いつく過程での総供給曲線が右方シフトするので、経済はやがてを実現する点で均衡する。
- 短期の総供給曲線の望ましくないシフトが起こると、景気後退とインフレーションの複合であるが起こる。
- その際、政策立案者には、の右方シフトさせることにより、短期の総供給曲線のシフトによる産出量の減少を相殺するという選択肢があるが、その過程で更なるが起こる。

(裏面に続く)

問2. 次の表をみて、(1)～(6)の2012年度の値を答えなさい。(4)～(6)については、小数点以下第2位を四捨五入した値を回答すること。

【2012年度の実質国内総生産(2005年価格)】 【2012年度のデフレーター】

民間最終消費支出	310
民間固定資本形成	80
政府最終消費支出	102
公的固定資本形成	23
在庫品増加	-3
財貨・サービスの輸出	81
財貨・サービスの輸入	73

(単位：兆円)

GDPデフレーター	91.3
-----------	------

(単位：2005年=100)

【2011年度の国内総生産】

実質GDP(2005年価格)	514
名目GDP	473

(単位：兆円)

- (1) 総資本形成(在庫投資を含む)
- (2) 財貨・サービスの純輸出
- (3) 実質国内総生産(実質GDP)
- (4) 名目国内総生産(名目GDP)
- (5) 実質成長率(%)
- (6) 名目成長率(%)

問3. GDPについて、以下の間に簡潔に答えなさい。

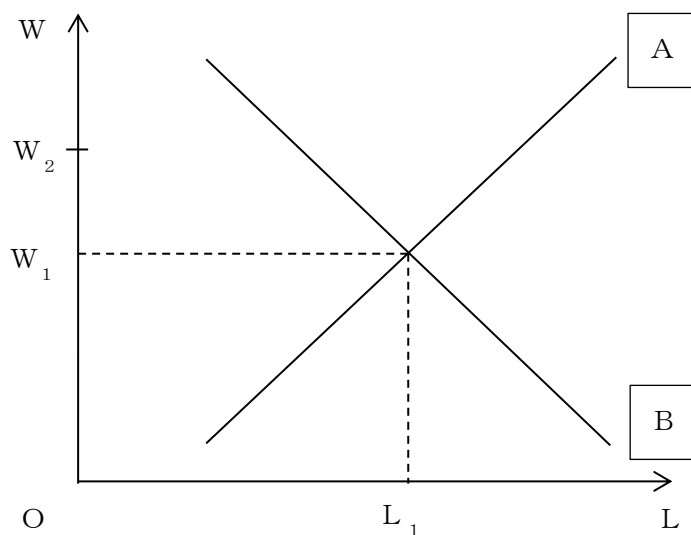
- (1) GDPの定義を説明しなさい。
- (2) GDPの構成項目に投資(固定資本形成)があるが、その定義について説明しなさい。
- (3) 名目GDPと実質GDPのどちらが社会の経済的福祉の尺度として適切か解答した上で、その理由について説明しなさい。
- (4) GDPを社会の経済的福祉の尺度として考えた場合、不十分な点がしばしば指摘されが、どのような点で不十分か実例を挙げて説明しなさい。

問4. 労働市場における最低賃金の影響について考えよう。まず最低賃金の規制がない場合を考える。労働市場において最低賃金の規制がない場合に、下記の図において賃金 W_1 、労働力 L_1 の点で労働市場が均衡していたものとする。

(1) 以下の文章において [] 中の正しい語を1つ選んで回答しなさい。

図中において、曲線Aは ① [企業 / 家計] の労働 ② [需要 / 供給] 曲線を表し、曲線Bは ③ [企業 / 家計] の労働 ④ [需要 / 供給] 曲線を表す。

(2) いま、政府が W_1 より高い水準に最低賃金 W_2 を定めたとする。この場合の労働市場において、雇用される労働者数および失業者数(余剰)について、下記の図を用いて説明しなさい(解答欄の左の図に記入し、右のボックス内に説明を記述すること)。



(問題はここまで)